

京 都 大 学
高 等 教 育 研 究

第 6 号

京都大学高等教育教授システム開発センター

2000

目 次

第一部 論 稿

「大学カリキュラム改革と授業改善」

田 中 毎 実 京都大学高等教育教授システム開発センター	1
今 井 重 孝 青山学院大学	8
赤 堀 侃 司 東京工業大学	15
藤 岡 完 治 京都大学高等教育教授システム開発センター	23

「高等学校と大学の接続に関する研究（その2）－大学の学業文化への参入と学習方略の変容－」

神 藤 貴 昭 京都大学高等教育教授システム開発センター	
伊 藤 崇 達 神戸常盤短期大学	35

「高等学校と大学の接続に関する研究（その3）－『学力』問題を手がかりとした中間総括－」

石 村 雅 雄 京都大学高等教育教授システム開発センター	53
------------------------------	----

「教育学部学生の情報リテラシー教育の最適化に関する研究（I）：入学直後から3カ月後への変化」

子 安 増 生 京都大学大学院教育学研究科	
郷 式 徹 静岡大学	
中 村 素 典 京都大学総合情報メディアセンター	65

KKJ－Kyoto-Keio Joint Seminar－プロジェクト論稿

「遠隔授業のオフライン・ゼミ合宿の学生主体型展開における教員の指導力について －高度教養教育における合同ゼミ合宿プログラムの教授資質の事例研究－」

井 下 理 慶應義塾大学	77
--------------	----

「KKJ実践における京都大学と慶應大学の相互イメージとその変化」

小 林 亮 慶應義塾大学	93
--------------	----

「学生・教育スタッフの満足度から見た授業の評価に関する一考察－授業のTQMをめざして－」

田 部 井 潤 浜松大学	111
--------------	-----

「遠隔間合同セミナーにおけるCSCLを利用したインタラクションに関する考察」

望 月 俊 男 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科院生	
柴 原 宜 幸 日本橋学館大学	123

「学習者の相互作用を促進するCSCL学習環境の構築と課題」

尾 澤 重 知 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科院生	137
--------------------------------	-----

研究ノート

「医学部教育の視点」	
野間昭典 京都大学大学院医学研究科	151
「和歌山大学におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）の実践報告」	
吉田雅章 和歌山大学	155
「大学の授業を考えるー『人間学的な知』に立脚した授業実践ー」	
毛利猛 香川大学	165
“The Increasing Implementation of Early Retirement : Pushing to Reshape the Orientation of Formal Education in Japan”	
Gloria Trinidad Salgado-Mendoza: Institute of Social Sciences and Humanities, Autonomous University of Puebla, Mexico	173

第二部 記 録

「第6回大学教育改革フォーラム」（所属等はフォーラム開催時）	
FDをどう組織するかー相互研修の共同体へ向けてー	
開会の辞 荒木光彦 京都大学高等教育教授システム開発センター長	187
挨拶 赤岡功 京都大学副学長	188
問題提起 田中毎実 京都大学高等教育教授システム開発センター・教授	190
実践報告	
「山口大学の実践」	
畑地正憲 山口大学共通教育センター長	195
「新潟大学の実践」	
小林昌二 新潟大学大学教育開発研究センター長	204
「メディア教育開発センターの実践」	
大塚雄作 メディア教育開発センター・教授	208
実践報告を受けて	
「相互研修の立場から」	
石村雅雄 京都大学高等教育教授システム開発センター・助教授	216
「教師論の立場から」	
藤岡完治 横浜国立大学教育人間科学部・教授	224
質疑応答	230
閉会の辞 荒木光彦 京都大学高等教育教授システム開発センター長	241

高等教育教授システム開発センター日誌（1999年9月～2000年8月）	243
高等教育教授システム開発センター業績（1999年9月～2000年8月）	247
英文概要1999-2000	255
『京都大学高等教育研究』編集規定	260
『京都大学高等教育研究』投稿規定	260
『京都大学高等教育研究』投稿のための注意	261

『京都大学高等教育研究』編集規定

1. 本誌は京都大学高等教育教授システム開発センターの研究誌として、原則として1年に1回発行する。
2. 本誌には、本センター関係教官の研究論文等の他、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論文等の掲載を希望する者は、所定の論文投稿要領及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、原稿3部（うち2部はコピー可）及び原稿をテキストファイルで保存したフロッピーディスク（2HD,1.4MB）を編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論文等の掲載は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載される論文等について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成10年度発行の『京都大学高等教育研究』第4号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿規定

1. 論稿の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとする。
2. 投稿された論稿は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
3. 用語は原則として日本語を用いること。但し、特殊な文字ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
4. 論稿は原則として以下の作成要領により、ワープロによって作成するものとする。
 - ・ A4版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
 - ・ 1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
 - ・ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
5. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し抜き刷りを50部贈呈する。なお、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
6. 投稿希望者は「『京都大学高等教育研究』投稿のための注意」を編集委員会に請求すること。
7. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規定は、平成12年度発行の『京都大学高等教育研究』第6号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿のための注意

平成11年5月14日制定

1. 論文原稿は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
2. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。計量単位は、原則として国際単位系（SI）を用いる。
3. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。
4. 註及び引用文献は、論文末に一括して掲げる。引用註は、論文の場合、著者、論文名、雑誌名、巻、号、年、頁の順とし、単行本の場合、著者、書名、発行所、年、頁の順とする。

例 ・ 田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1)―平成8年度実施のために―」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年、127頁。

・ 讃岐幸治・田中每実共編『ライフサイクルと教育』青葉図書、1995年、5頁。

5. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で(1)、(2)…と指示し、論文原稿末尾にまとめて記載する。記載例は、4による。
6. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, …をつける。

例 ・ 田中（1995a）が強調するように、…

・ という調査結果も提示されている（田中、1996）。

7. 引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。

例 ・ 田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1)―平成8年度実施のために―」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年。

8. 脚注は、表題、所属機関の補足説明、謝辞、内容の補足説明に限り用いる。全ての脚注を1枚の用紙に書き、ローマ数字 i ii…で通し番号をつける。
9. 論文の題名の英訳及び論文の英語による200語程度の要約を、日本語題名の後につけること。

以 上

『京都大学高等教育研究』第6号 編集委員会

藤岡完治 田中每実 ○石村雅雄
大山泰宏 溝上慎一 神藤貴昭
(○は編集委員長)

平成12年9月30日 印刷

非売品

平成12年10月1日 発行

発行 京都大学高等教育教授システム開発センター

京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)

TEL 075-753-3087

FAX 075-753-3045

印刷 創文堂印刷株式会社

福井県福井市問屋町1-7

TEL 0776-22-1313

Kyoto University Researches in Higher Education

vol.6

CONTENTS

Articles

- Curriculum Reform and Improvement of Instruction in University Today
..... Tsunemi TANAKA
Shigetaka IMAI
Kanji AKAHORI
Kanji FUJIOKA
- A Study of articulations between senior high schools and universities (2)
—Joining to academic culture of university and transformation of learning strategies—
..... Takaaki SHINTO
Takamichi ITO
- A Study of articulations between senior high schools and universities (3)
—Intermediate conclusion through an analysis of the problems about lowering “GAKURYOKU” —
..... Masao ISHIMURA
- Optimizing information literacy education for the first year course of the Faculty of Education (I)
..... Masuo KOYASU
Toru GOUSHIKI
Motonori NAKAMURA

Articles about KKJ—Kyoto-Keio Joint Seminar—Project

- Teaching competency of faculty for Development of student’s sensitivity in “off-line intensive training camp” on the distance learning—A case study of faculty development on inter-university program—
..... Osamu INOSHITA
- Mutual Image and Its Change between Kyoto University and Keio University in KKJ Project
..... Makoto KOBAYASHI
- A Study of Evaluation of Teaching in the View of Students and Teaching Faculty’s Satisfaction:
Toward the Total Quality Management of Teaching Jun TABELI
- Interaction between Distant-Seminars using CSCL Toshio MOCHIZUKI
Yoshiyuki SHIBAHARA
- Building Computer Supported Collaborative Learning Environment for Distance Seminars
..... Shigeto OZAWA

Notes

- Thinking about medical education Akinori NOMA
- Report on the FD (Faculty Development) activities of Wakayama University Masaaki YOSHIDA
- Thinking the Practice of Teaching in University
— Practice of Teaching based on “Anthropological Knowledge” Takeshi MOURI
- The Increasing Implementation of Early Retirement: Pushing to Reshape the Orientation of Formal Education in Japan Gloria Trinidad Salgado-Mendoza

Documents

- VI th. Forum of University Reform ; How do we organize associations for Faculty Development
- Opening Remarks I Mitsuhiro ARAKI
- Opening Remarks II Isao AKAOKA
- Purpose of this forum Tsunemi TANAKA
- Lecture “Faculty Development in Yamaguchi University” Masanori HATACHI
“Faculty Development in Niigata University” Syoji KOBAYASHI
“Faculty Development by NIME” Yusaku OTSUKA
- Comments “From the view point of mutual training” Masao ISHIMURA
“From the view point of teacher education” Kanji FUJIOKA
- Discussion
- Closing Remarks Mitsuhiro ARAKI

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2000